

6 と違うカタカナ語は、新しい言葉を学ぶのと同じことであ
7 る¹。しかし、カタカナ語に困^{こま}っているのは日本語学習者
8 だけではない。

9 2002年、国立国語研究所が分かりにくいカタカナ語
10 (外来語)を日本語に言い換える案^{あん}^{はっぴょう}²を発表した。この言
11 い換え案^{あん}は、まず日本国民^{こくみん}³にそのカタカナ語がどのくら
12 い理解^{りかい}されているのかを調べて、その結果^{けっか}⁴から提案^{ていあん}され
13 た⁵ものだった。この調査^{ちょうさ}の対象者^{たいしょうしゃ}⁶は「国民全体^{こくみんぜんたい}⁷」と「6
14 0歳以上^{いじょう}」に分けている。年齢^{ねんれい}の高い人の方がカタカナ語
15 を知らないと考えられるからだ。

16 例えば、「ケア」の理解度^{りかいど}は国民全体^{こくみんぜんたい}で75%以上、60
17 歳以上^{いじょう}は50%以上、75%未満^{みまん}⁸である。これは多くの
18 人に定着^{たと}している⁹と考えられる。「バリアフリー」は国民
19 全体の理解度^{りかいど}は50%以上75%未満^{みまん}で、60歳以上も同
20 様^{よう}であった。こちら半数以上^{はんすういじょう}が理解^{りかい}しているので、理解
21 度^どは高い方だ。

22 ところが、「デリバリー」は、国民全体^{こくみんぜんたい}の理解度^{りかいど}は25%
23 以上50%未満^{みまん}、60歳以上^{いじょう}の理解度^{りかいど}は25%未満^{みまん}で、ほ
24 とんどの人が意味^{りかい}を理解^{りかい}していないことが分かる。

25 このように国民^{こくみん}の中でも世代^{せだい}¹⁰によって¹¹カタカナ語

¹schrijftaalvorm van だ

²plan, voorstel

³inwoners van een land

⁴gevolg

⁵ていあんする 'voorstellen'

⁶'personen op wie het onderzoek betrekking heeft'

⁷'geheel'

⁸'minder dan...'

⁹ていちゃくする 'voet aan de grond krijgen, aarden'

¹⁰'generatie'

¹¹hier: 'afhankelijk van ...'